

文化・歴史・暮らし

基本キーワード 「伝える・創る・誇る」

付帯キーワード 「気づく」「つなぐ」

キーポイント 歴史と文化をようかんで（よく味わって）

いいもの、素材がたくさんある小城市。それを知って、伝えながら、また新たなものを創造し、誇りを育てていくことが大切です。

〈いま〉小さな面積の小城市には、全国100選といわれるものが6つ、22世紀に残す佐賀県遺産も7つ存在します。世界で唯一のムツゴロウ・シオマネキ保護区があるのも小城市です。魅力ある食べ物、文化も数多くあります。でも、みんなよく知っているのでしょうか？多数行われているイベントも、次につながる何かを感じてもらえているのでしょうか？

働く場所も憩える場所も近くにあって暮らしやすいということを市民は感じているのでしょうか？

《提案》徹底的に知る、見る、聞く。（知ってもらう、見てもらう、聞いてもらう。）まず、市民が小城市のことをよくかみくだいて知り、誇りをもち、子どもたちに、そして市外の皆さんに伝えつなぐことができれば。伝えていく中から創られるものもでてくるでしょう。くらしの文化、食の文化といった生活文化の伝承も大切です。誰でも学び、語り、そしてもっと誇りましょう。



こんな議論から具体的な

事業の展開へつなげていきます

弥生時代の大陸との交流や農業の様子、鎌倉、江戸、明治、現代まで歴史が積み重なっていることが目で見てわかるのが、この小城市です。

条里制の名残り、小京都の町並み、江戸時代に入ってきた普茶料理、そして長崎街道、港町として栄えた名残りの建物、干拓など小城には歴史を感じる場所がありすぎるほどです。でも、それが私たちの暮らしの中ではあたりまえすぎて、理解しているようで、実はよくわかっていないのでは？また、ちょっと離れた所のことを知らないのでは、と考えました。

ここに何があるのか、どんな物があるのかを「探検マップ」や「語り部」などの方法でわかりあっていければいいですね。

過去の歴史の中から何か地域の活性化につなげていけることもあるのでは？

また、かつてのシュガーロード≪長崎街道≫が通る小城市で、お茶やお菓子を楽しむ暮らしを小城市スタイルとして取り組むことができれば何かが変わってくるかもしれません。

いずれにしても、いろいろな小城のことを知る「小城大学」のようなものを創ってみるのも一つの方法かもしれません。

